

- 中山手地区再開発ビル(トア山手)が完成!(P.1)
- 第2回こうべユニバーサルデザイン都市づくり講座開催(P.2)
- 「山麓リボンの道」を行く⑥:いそかぜのみち(1)(P.7)
- 神戸らしい眺望景観10選を訪ねて「高取山からの眺め」ほか(P.4)

発行:神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

中山手地区再開発ビル(トア山手)が完成!

～中山手地区第一種市街地再開発事業～

神戸市では、地元権利者のみなさんと専門家・事業者のパートナーシップにより、これまでに多くの地区で民間再開発事業に取り組み、震災までに10地区、震災復興事業として8地区が完成しています。「中山手地区」は、震災後に着手した最初の民間再開発事業で、平成17年12月に再開発ビル着工、平成20年11月11日に竣工式を行いました。



■「中山手地区」について

この地区は、JR・阪神元町駅から徒歩約400mと利便性が高く、国際都市神戸を代表する通り「トアロード」に面する国際色豊かな地域です。地区周辺に華僑の方が多く住み、「神戸中華同文学校」の発祥の地であるなどの歴史を持つ場所でもあります。

戦後、木造家屋が密集して建てられましたが、未接道の宅地や細分化された敷地が多く権利関係も複雑で、老朽化しても更新されないままとなっており、土地の健全な高度利用による都心の再生と良好な住環境の整備が求められていました。

■再開発への取り組み

昭和63年、地域住民により「中山手再開発協議会」が設立、平成2年に「中山手再開発準備組合」が設立され、再開発に向け取り組んできましたが、バブル経済の崩壊や、その後の阪神・淡路大震災では地区内の約半数の建物が倒壊するという甚大な被害を受け、事業が停滞しました。しかし、地区住民による再開発にむけた粘り強い活動により、平成15年に参加組合員を決定、都市計画決定がされました。そして平成16年に市街地再開発組合の設立、平成17年に権利変換計画の認可を受け、再開発ビルの工事

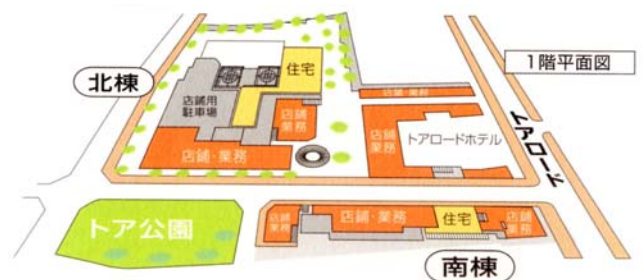
着手に至りました。この間、延べ180回をこえる理事会での検討、組合員の意向把握や合意形成、周辺のまちづくり団体との協議などが進められました。

■事業のあらまし

この事業では、建物の更新を図り、都心回帰を促す良質な住宅(354戸)の供給、魅力あふれる商業・業務施設の整備により、地区の特色を活かした魅力ある安全・安心なまちづくりを目指しています。

再開発ビルは、北棟をランドマークとなる超高層、南棟を高層とし、低層部及びトアロード沿道部を商業・業務施設、上層部に都市型住宅を配置しました。また、地区内の道路の拡幅、誰もが憩える地域のシンボリックな公園(トア公園、約1,000㎡、平成21年3月完成予定)や広場の整備により、生活環境の向上を図っています。

位 置	中央区	北棟	
	中山手通3丁目、 下山手通3丁目	(タワー棟) (ウィング棟)	35F/B1F 延33,880㎡ 7F 延 1,690㎡
地区面積	約1.0㌦	南棟	
事業年度	平成14～20年度	(フラッツ棟)	13F/B1F 延 8,780㎡
権利者数	182人	住宅戸数	354戸



この事業は「トア山手プロジェクト」と呼ばれ、「海に、山に、空に、未来に手が届く・トア山手」をキャッチフレーズに、中山手地区のみなさんが力を合わせて進めてきました。この再開発事業の完成により、北野と居留地を結ぶトアロードに新たな拠点が形成され、都心の回遊性が向上し、中山手地区の特性を活かした魅力あふれるまちが、神戸都心に誕生することが期待されます。

民間再開発事業のホームページ:

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/33/33/saikaihatu/minsai/minsai.htm>

(都市計画総局総務部民間活力創造室)

第2回こうべユニバーサルデザイン(UD)都市づくり講座開催

おもてなしの心があふれるまち・神戸へ

～ ユニバーサルサービスの取組みから ～

神戸市では、市民の皆様や来訪者の方が安心して快適に過ごせる街にするために、みんなにやさしい「ユニバーサルなまち・神戸」をめざして、市民や事業者の皆様と共に、ユニバーサルデザイン（以下、UD）の視点で様々な取組みを進めています。

昨年度より、神戸市内でユニバーサルな活動に取組む市民団体や事業者の皆様が集まり、コーディネーターの相良二郎氏（神戸芸術工科大学教授）を中心に、先進的なUDの取組み事例の紹介や情報交換の場として交流会や講座を開催しています。

■これまでの「こうべUD都市づくり交流会・講座」

第1～3回の交流会では、先進的なUDの取組みをしている施設について、UDに関心のある市民の方（車いす使用の老夫婦、子ども連れ3世代家族、視覚障がいの方、学生等）による取材や各施設からの具体的な取組みの報告、参加者によるUD探検（施設見学）などがありました。

- 第1回交流会 大丸神戸店・商業施設編 (H20.3.10)
- 第2回交流会 神戸空港・交通ターミナル編 (H20.6.30)
- 第3回交流会 神戸花鳥園・観光施設編 (H20.8.22)
- 第1回講座 トイレからみんなにやさしい施設づくりを考える
講師：小林純子氏（設計事務所ゴンドラ） (H20.3.12)

■第2回講座「おもてなしの心があふれるまち・神戸へ」

去る10月10日（金）神戸市役所で、様々な方に配慮したおもてなしの心「ユニバーサルサービス」への取組みをテーマにした第2回の講座が、神戸市とNPO法人ウィズアスとの共催で開催され、約100名の方の参加がありました。



第2回こうべUD都市づくり講座

今回の講座では、『ユニバーサルサービス（岩波書店）』『世界のUD（読売新聞連載）』の著者 井上滋樹氏（懶博報堂）から、「ユニバーサルサービスのすすめ」と題して、急速に進む高齢化社会の中、ハード面だけでなく、人と人とのコミュニケーションや人的サポートなどのソフト面、あらゆる人のためのサービス「ユニバーサルサービス」の重要性や、米国でのまちづくりとユニバーサルサービスの事例についての講演がありました。

その後、「ユニバーサルサービスの視点から見たこれからのこうべUD都市づくり」と題して、相良二郎氏をコーディネーターに、井上滋樹氏と鞍本長利氏（NPO法人ウィズアス）との対談が行われ、「ユニバーサルに関する情報共有を進め、さらなるネットワーク化の推進や積極的な情報発信を、神戸全体で取組んでいく意識が大切である」などの話がありました。最後は、「誰もが、神戸を訪れて良し、住んで良し、住んでいることを誇りに思える街にしたい」とのメッセージがありました。



井上滋樹氏



相良二郎氏



鞍本長利氏

■今後の神戸での取組み

「神戸ユニバーサルツーリズム」の活動に取り組むNPO法人ウィズアスが「平成20年度 地方の元気再生事業（内閣府）・地域活性化プロジェクト」の一環として、具体的なユニバーサルサービスへの取組みに関する講座や研修会を事業者向けに開催する予定です。

神戸ユニバーサルツーリズム WING KOBE

高齢者や障がい者が神戸を訪れる際、必要な情報を提供したり、様々な支援（観光・宿泊情報、移動支援、介助人派遣等）をコーディネート。
電話 078-621-7707 <http://wing-kobe.org/index.htm>

詳細は下記のホームページをご覧ください。

◇神戸市ホームページ（こうべUD都市づくり）

<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/33/33/ud/kouryuukai/kouryuukai.html>

（都市計画総局総務部民間活力創造室）

「山麓リボンの道」を行くーその6:いそかぜのみち(I)

森崎輝行 (いきいき下町推進協議会)

今回は、いそかぜの香り漂う山麓リボンのみちの紹介です。このみちは、平成20年に「神戸らしい眺望景観50選・10選」に選定されたばかりの須磨離宮道からのスタートです。今回の道は、古くからのいわれの多い「地」なので、はっきりしたこととはなかなか言い切れないことが多くあります。しかし、後世の人々が様々な書物等から、その昔へ思いをよせ、愛とロマン、叙情と夢の物語が多く云い伝えられることとなりました。この地は、様々な時代の人々の願望も入れ混ざったやすらぎ、癒しの空間の「地」となったのです。

平安期から、この「地」は「須磨」と呼ばれています。この「地」は、畿内のなかの辺境すなわち、畿内の西のすみだったところでした。また、六甲山系である鉢伏山や鉄拐(てっかい)山が海に迫った平地のすみでもありました。このすみがなまってスマとなり、様々な字が当てられた後、「須磨」と定着したようです。現在、須磨がつく地名には、西須磨と東須磨がありますが、江戸時代は、千森川(千守町と須磨寺町の境界を流れていた)を境にしていたようです。かつて、「須磨」と呼ばれていた地区は、古くは、この「西須磨」の地域を指していたとのことでした。今回は、まさに、この「須磨」が中心です。

須磨離宮道の中ほどから西へ、暗渠化された千森川を横断したところに須磨寺公園があります。意外と知られていないのですが、須磨寺公園には、全国温泉ガイドにも登場する温泉があります。須磨温泉といい、2軒の温泉宿が紹介されていました。過去形なのは、現在は、1軒のみの寂しい営業となっているからです。しかし、震災前までは、「須磨寺」詣や桜の花見客で賑わったのを筆者も覚えています。

■須磨寺公園



この公園の北西隅に「水琴窟」があります。公園整備の時につくられたようですが、パイプで作られた現代的なものです。「水琴窟」とは、江戸時代から伝わる地中に埋めた「かめ」の中に響く水の音を楽しむ施設ですが、古代の空間が繋がっているように聞こえます。

■須磨寺公園水琴窟



その須磨寺(上野山福祥寺)は、仁和2年(886年)、「光孝天皇」の勅命により開祖間鏡上人が建立したものです。「光孝天皇」といえば、献歌した1首が光孝天皇の逆鱗に触れ、須磨の地に流されたとの説もある「在原行平」が想起されます。源氏物語の光源氏のモ

デルともいわれている人です。今年、物語が執筆されてから千年になりますが、この物語は「須磨」の巻から書かれたともいわれています。また、行平は、謡曲「松風」の主人公でもあります。



■松風 村雨堂

『ある日、行平が海辺で千鳥を見ていると、女性が2人、潮汲みにやってきた。名を聞いても答えなかった。この時、松風が吹き、村雨が降ったので、行平は彼女らを松風、村雨と呼ぶことにした。…3年後、行平が都に帰る日が近づくと、姉妹は別れのつらさに歎き悲しんだ。ふびんに思った行平は、自分の烏帽子と狩衣を住居のわきの松の枝に掛け、黙って都へ去った。後でこれを見た姉妹は泣く泣くここに庵を結び、余生を送ったという。』この松を衣掛けの松と呼ぶようになり、この庵が離宮道にある松風村雨堂といわれています。ここ須磨若宮一帯には、在原行平のロマン溢れるエピソードにちなんだ町名(磯馴町、衣掛町、村雨町など)が並んでいます。

須磨寺の話にもどります。ここは、敦盛ゆかりの寺として有名で、「青葉の笛」も公開されています。この「笛」は、熊谷次郎直実が、前の晩に耳にした美しい「笛」の音の主であり、息子のような若年齢の平敦盛を討たざるを得なかったという悲劇の象徴で、戦前、この物語は唱歌としてもうたわれていました。



■須磨寺仁王門

須磨寺は、昭和21年の真言宗須磨寺派開宗により、須磨寺真言宗十八本山霊場となりました。だから、宗祖弘法大師ならびに真言八祖を祀っています。毎月20、21日には、寺社境内や門前の参道では、「須磨のお大師さん」としての縁日があり、十数万の参詣があります。又、この道は、共に学問・智慧と縁の深い、須磨寺(弘法大師)と綱敷天満宮(菅原道真)とを結ぶ道であることから「須磨 智慧の道」と呼ばれています。この「須磨 智慧の道」では、「お大師さん・天神さん道《智慧の道》推進連絡協議会」などのまちづくり活動の一環として、2000年ごろから「須磨寺周辺ぶらりマップ」の配布、「道標」の設置、さくら・セタ・盆踊り・年越しなど季節の節目の住民によるフリーマーケットを中心とした楽市、道の両側にろうそくを灯し幻想的な「道」に変貌させる「光の回廊」、「智慧の盆」などの取り組みが行われています。

(次回につづく)

神戸らしい眺望景観 10 選を訪ねて 「高取山からの眺め」

～頂上に行くまでの長い階段は、この眺めの素晴らしさを倍増させます～



高取山(「たかとりさん」とも呼ばれている)は、標高328mで須磨区と長田区にまたがる山です。六甲全山縦走コースであるとともに、毎日登山の場としても地元市民の方々に親しまれています。

みなさんは、高取山に登られたことはありますか？私も登った事がありますが、大変しんどかったのを覚えています。しかし、頂上に登るまでの所々に眺めの良いスポットがあり、登っていくにつれて「次はどんな眺めが見られるのかなぁ♪」と、疲れを忘れさせる楽しさがありました。そして、頂上に到着した時の第一印象は…“超気持ちイイ!!しんどかったけど、ここまで登ってきた価値は絶対ある。”でした。長田以東の市街地や大阪湾が一望でき、大変素晴らしい眺望に、ここまでの登山の疲労が一気に吹き飛びました。このすがすがしい感動は、一度みなさんの目で確認してみてください。



鷹取団地前バス停横が登り口になります

◆豆知識◆高取山について (長田区役所 HP “ながたの民話” より)

古名は、高取山は「神撫山(かんなでやま)」と呼ばれていました。神功(じんぐう)皇后が、長田に上陸し休憩された際に、傍らにあった大きな石を撫でると、おくおく大きな岩になり、ついには高い山になったので、この山は神撫山と名付けられたそうです。現在は、高取山と呼ばれていますが、ずっと昔、大洪水で山全体が水没した際に、大きな松の木に、たくさんの蛸が絡まりその蛸を捕獲したということから、人々はその山を「タコ取り山」と呼ぶようになり、それが後に「高取山」と書くようになったそうです。

※お願い…登山道の周囲に住宅等がありますので、大声は控えてください。

(都市計画総局計画部景観室)

まちづくり会館 展示のお知らせ

※展示時間：午前10時～午後6時(水曜日休館)

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
11月21日(金)～12月9日(火)	第10回神戸まちなみ緑花コンクール受賞作品パネル展	神戸市公園緑化協会
12月11日(木)～12月26日(金)	開館15周年記念 すまいの耐震化展	都市計画総局耐震化促進室/兵庫県建築士会/兵庫県建築士事務所協会 ほか
1月5日(月)～1月30日(金)	開館15周年記念 震災復興航空写真パネル展/(仮)QTVRで見る震災復興の今	都市計画総局地域支援室/こうべまちづくり会館

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
11月28日(金)～12月2日(火)	風の会作品展《水彩》	風の会
12月4日(木)～9日(火)	2008年秋 光彩会絵画展《油彩等》	光彩会
12月11日(木)～16日(火)	開館15周年記念 市民と建築士・建築家が創るまち《パネル展》	兵庫県建築士会/兵庫県建築士事務所協会/兵庫県設計監理協会/JIA近畿支部 ほか
12月18日(木)～23日(火)	彩風会 淡彩スケッチ展《水彩》	彩風会
1月8日(木)～13日(火)	神戸大学写真部 部展	神戸大学 写真部
1月23日(金)～27日(火)	公募写真展	(財)兵庫労働者福祉基金協会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時(水曜日休館)

場 所：元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付：午前10時～午後6時(水曜日休館)

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX：078-361-4565